

S I D R

滋賀県感染症情報

SHIGA Infectious Diseases Report

《週報》

第 8 巻第 18 号

第 18 週(4月28日～5月4日)

発行年月日:平成20年(2008年)5月9日

発行:滋賀県衛生科学センター内
滋賀県感染症情報センター

電話 077-537-7438 FAX 077-537-5548

今週の感染症発生動向

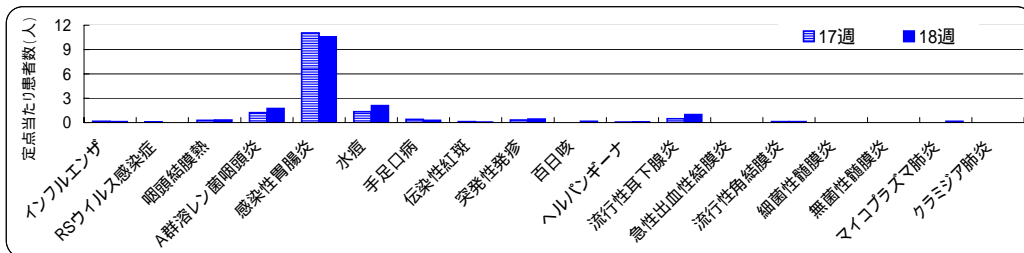
**流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)は彦根保健所管内で急増
腸管出血性大腸菌感染症は先週に引き続き発生
今年になって6例目の麻しん患者の発生**

定点把握の対象となる五類感染症の発生状況は前週の報告数よりかなり多くなっています。今週増加した疾患はA群溶レン菌咽頭炎、百日咳、流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)等で、減少した疾患はインフルエンザ、感染性胃腸炎等です(詳細については、疾病別定点当たり患者数のグラフ参照)。

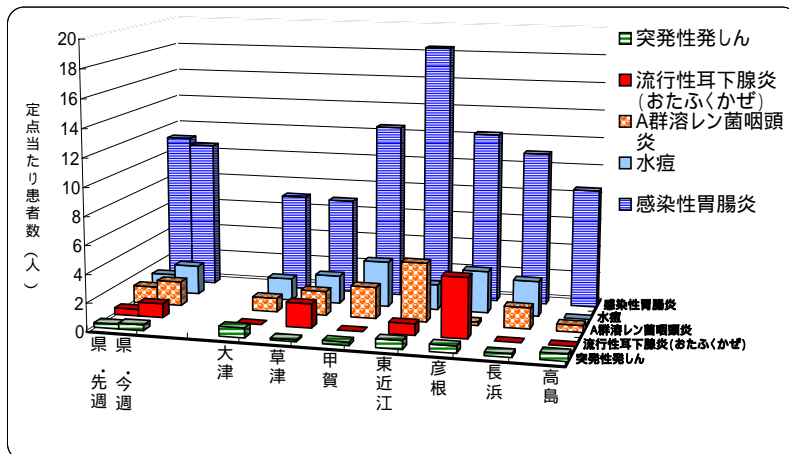
「感染症発生動向調査に基づく感染症の警報・注意報システム」によると、咽頭結膜熱(プール熱)では高島保健所管内で、A群溶レン菌咽頭炎では東近江保健所管内で**警報発生基準値を超えています**。また、流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)では彦根保健所管内で**注意報発生基準値を超えています**(警報・注意報システムおよび基準値については今週の発生状況参照)。

全数把握対象疾患では、二類感染症の結核で7名、三類感染症の腸管出血性大腸菌感染症で2名、五類感染症の後天性免疫不全症で1名および麻しんで1名の届出がありました。

定点把握の対象となる五類感染症の疾患別発生状況(前週との比較、定点当たり患者数)



上位5疾患の発生状況(定点把握対象五類感染症、第18週、定点当たり患者数)

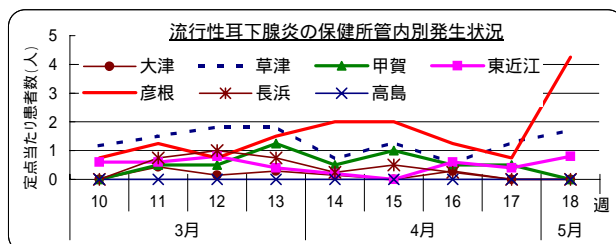


県全体における上位疾患の発生状況についてはグラフに示すとおり、感染性胃腸炎、水痘、A群溶レン菌咽頭炎、流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)、突発性発しんの順に多くなっています。感染性胃腸炎およびA群溶レン菌咽頭炎は東近江で、流行性耳下腺炎は彦根で急増しています。

流行性耳下腺炎の発生状況

(平成20年第10～18週、H20.3.4～5.4)

第10～18週の発生状況は彦根および草津で多くなっており、特に第18週は彦根で急増しています。また、第18週における年齢別の発生状況は、7歳が21.2%、3歳および10～14歳が18.2%となり、他の年齢層よりかなり多くなっています。



1) 全数報告の感染症(一類～五類)

滋賀県内の医療機関において、医師が感染症法で定められている一～四類および五類感染症に該当する患者を診断したとき医師は保健所に届出ることになっています。このことを全数報告といいます。届出により、滋賀県内で発生している感染症法で定められた一～四類および五類感染症を把握することができます。

感染症類型	疾患名	報告数 (18週)	累積報告数		平成19年報告数	
			滋賀 (18週)	全国 (18週)	滋賀	全国 ^{(*)1}
一類感染症	報告なし	0	0	0	0	0
二類感染症	結核	7	86	7,835	178	20,151
三類感染症	細菌性赤痢	0	0	93	^{(*)2} 2	450
	腸管出血性大腸菌感染症	2	6	338	55	4,586
四類感染症	パラチフス	0	0	14	1	22
	E型肝炎	0	0	18	1	54
	A型肝炎	0	0	60	1	154
	デング熱	0	1	18	1	89
	マラリア	0	1	11	1	52
五類感染症	レジオネラ症	0	2	249	8	655
	アメーバ赤痢	0	2	277	15	781
	ウイルス性肝炎	0	2	70	2	231
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	47	4	148
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	1	46	1	96
	後天性免疫不全症候群	1	4	471	9	1,449
	ジアルジア症	0	1	27	1	56
	梅毒	0	1	234	2	714
	破傷風	0	1	22	0	88
	急性脳炎	0	0	75	2	216
	風しん ^{(*)3}	0	0	155	-	-
	麻しん ^{(*)3}	1	6	7,179	-	-

*1: 平成19年の全国報告数は、平成19年に滋賀県で報告された疾患を対象としています。

*2: 検疫法第26条の3に基づく検疫所長から滋賀県知事への通知分1件を含み増す。

*3: 平成20年1月1日から全数把握対象疾患に変更。 - ; 定点把握対象疾患のため、全数報告数は未集計

全国における全数報告感染症の発生状況 - 第18週(4/28～5/4) -

一類感染症: 報告なし	四類感染症: A型肝炎 2例	五類感染症: 後天性免疫不全症候群 13例
二類感染症: 結核 249例	つつが虫病 2例	クロイツフェルト・ヤコブ病 3例
三類感染症: 細菌性赤痢 5例	レジオネラ症 12例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症 2例
腸管出血性大腸菌感染症 25例	五類感染症: アメーバ赤痢 5例	急性脳炎 1例
コレラ 1例	ウイルス性肝炎 2例	風しん 4例
パラチフス 2例	ジアルジア症 2例	麻しん 287例
四類感染症: E型肝炎 1例	梅毒 10例	
	破傷風 2例	

2) 定点把握の対象となる五類感染症

感染症発生動向調査事業に係る報告のために、滋賀県が指定した「指定届出機関」を定点医療機関(定点)といい、その定点から報告される感染症です。また、定点当たり患者数とは、一週間を単位として一カ所の定点から何人の患者が報告されているかを示したものです(患者報告数/定点医療機関数)。

例えば、一つの疾患(インフルエンザ等)について、一週間に53カ所の定点*から総数53人の報告があれば、定点当たり患者数は1.00となります。*疾患により定点数は異なります。

(1) 疾病別・週別発生状況(平成20年第13～18週, 3/24～5/4)

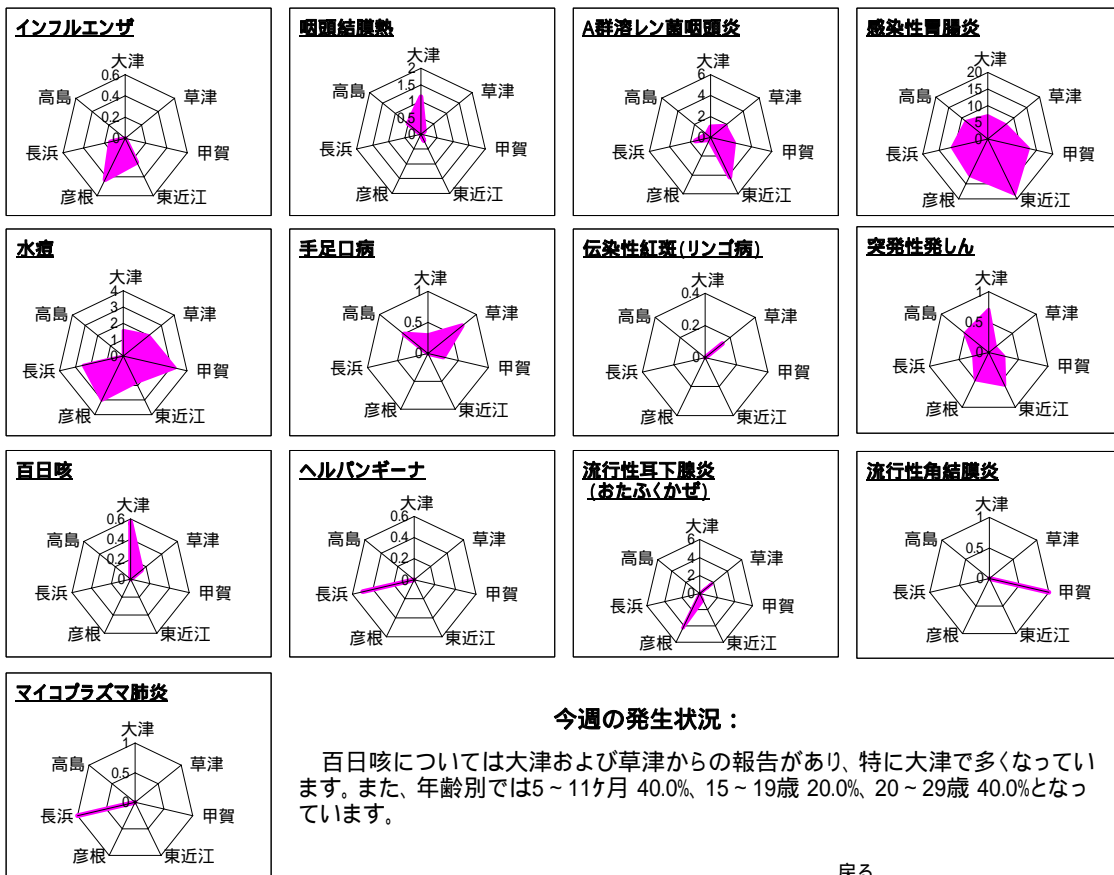
疾患名	定点当たり患者数 (前週より増加 前週と同じ 前週より減少)											
	13週		14週		15週		16週		17週		18週	
	(3/24～)	(3/31～)	(4/7～)	(4/14～)	(4/21～)	(4/28～)	14	15	16	17	18	
インフルエンザ	1.09	0.43	0.46	0.28	0.15	0.11						
RSウイルス感染症	0.03	0.09	0.09	0.06	0.06	0						
咽頭結膜熱(プール熱)	0.13	0.21	0.24	0.58	0.27	0.33						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.59	0.82	1.27	1.03	1.24	1.73						
感染性胃腸炎	9.69	8.64	9.79	11.27	11.06	10.58						
水痘	1.78	1.52	2.30	1.67	1.33	2.09						
手足口病	0.13	0.03	0.09	0.12	0.39	0.27						
伝染性紅斑(リンゴ病)	0.16	0	0	0.18	0.12	0.03						
突発性発しん	0.41	0.45	0.42	0.36	0.33	0.42						
百日咳	0.03	0	0	0.09	0	0.15						
ヘルパンギーナ	0.06	0	0.03	0	0.03	0.06						
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	0.91	0.48	0.70	0.52	0.48	1.00						
急性出血性結膜炎	0	0	0.13	0	0	0						
流行性角結膜炎	0.29	0	0.25	0	0.13	0.13						
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0						
無菌性髄膜炎	0	0	0	0.14	0	0						
マイコプラズマ肺炎	0.43	0.14	0	0.14	0	0.14						
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0						

(2)疾病別・保健所管内別発生状況(第18週、4/28～5/4)

疾患名	定点当たり患者数(県・保健所管内別)								疾患別発生状況 (県全体)
	県	大津	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島	
インフルエンザ	0.11	0	0	0	0.25	0.43	0.14	0	
RSウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	
咽頭結膜熱(プール熱)	0.33	1.14	0.14	0	0.20	0	0	0.50	■
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.73	1.00	1.71	2.25	4.20	0.25	1.50	0.50	■
感染性胃腸炎	10.58	7.00	6.86	12.50	18.40	12.25	11.00	8.50	■
水痘	2.09	1.57	2.00	3.25	1.80	3.00	2.50	0	■
手足口病	0.27	0.29	0.71	0.25	0	0	0	0.50	■
伝染性紅斑(リンゴ病)	0.03	0	0.14	0	0	0	0	0	
突発性発しん	0.42	0.71	0.14	0.25	0.60	0.50	0.25	0.50	■
百日咳	0.15	0.57	0.14	0	0	0	0	0	■
ヘルパンギーナ	0.06	0	0	0	0	0	0.50	0	
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	1.00	0	1.71	0	0.80	4.25	0	0	■
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
流行性角結膜炎	0.13	0	0	1.00	0	0	0	0	■
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
マイコプラズマ肺炎	0.14	0	0	0	0	0	1.00	0	■
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0	

■ は定点当たり患者数が先週より増加
■ は警報発生中 ■ は注意報発生中
 0 3 6 9 12
 定点当たり患者数(人)

疾患別・保健所管内別発生状況(定点当たり患者数)



今週の発生状況：

百日咳については大津および草津からの報告があり、特に大津で多くなっています。また、年齢別では5～11ヶ月 40.0%、15～19歳 20.0%、20～29歳 40.0%となっています。

戻る

<<感染症発生動向調査に基づく流行の警報・注意報システム>>

感染症発生動向調査に基づく流行の警報・注意報システム(厚生労働科学研究事業)では過去5年間の患者発生状況をもとに疾患ごとに警報レベルおよび注意報レベルの基準値を設定し、その基準値を超えた時に流行発生警報(警報)あるいは流行発生注意報(注意報)という表現により流行状況を示しています。

流行発生警報

流行発生警報という表現により大きな流行が発生した、または発生している可能性があるという情報を提供しています。

流行発生注意報

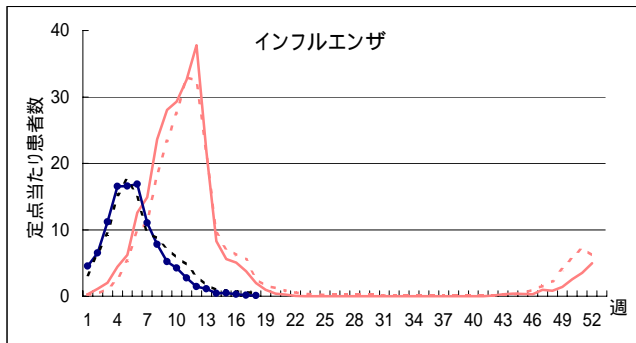
流行発生注意報という表現により今後4週間以内に大きな流行が発生する可能性がある、または現在も流行が継続している可能性があるという情報を提供しています。

警報・注意報の基準値

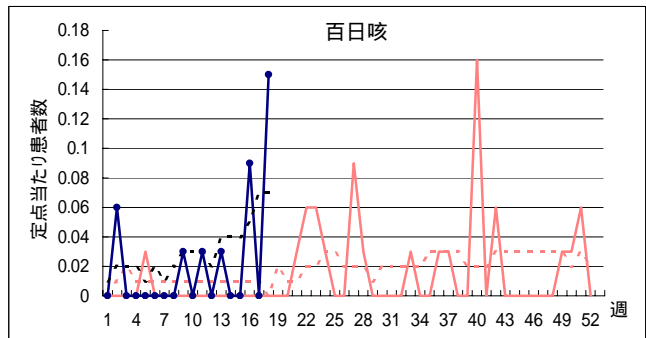
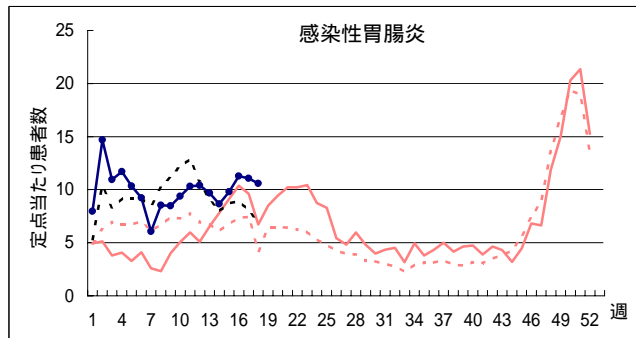
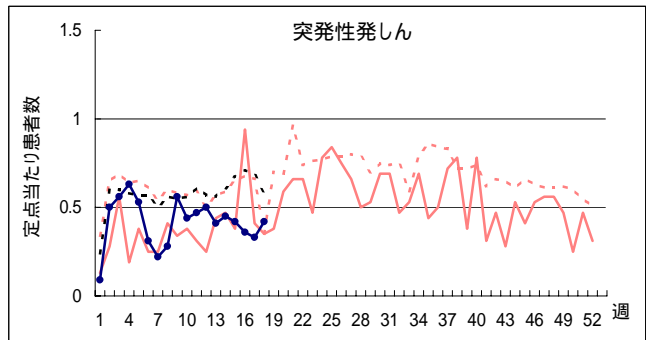
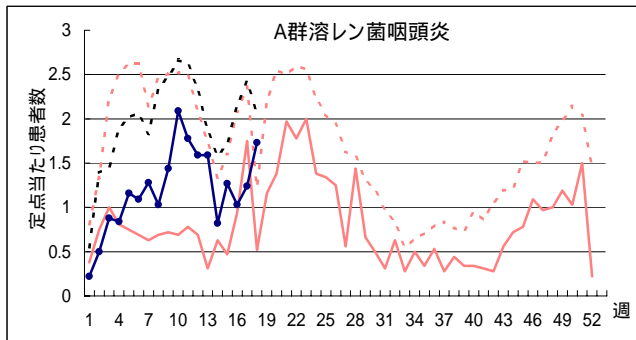
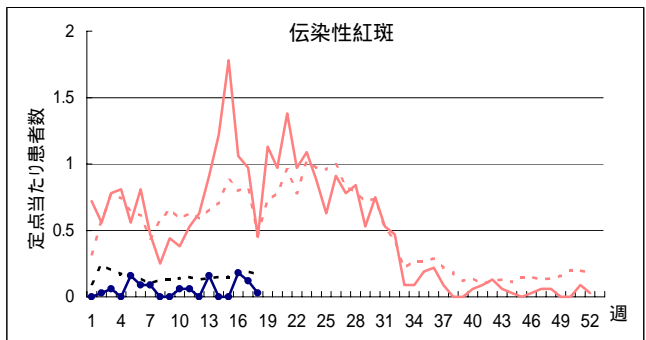
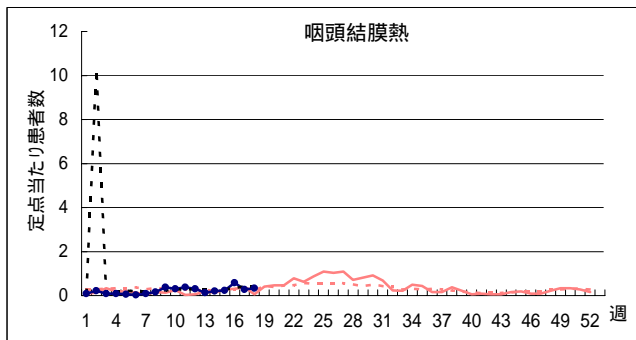
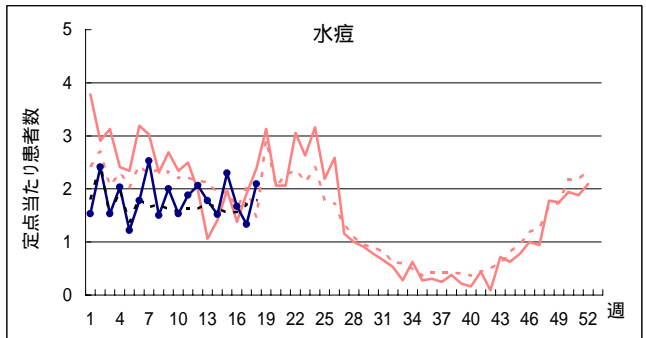
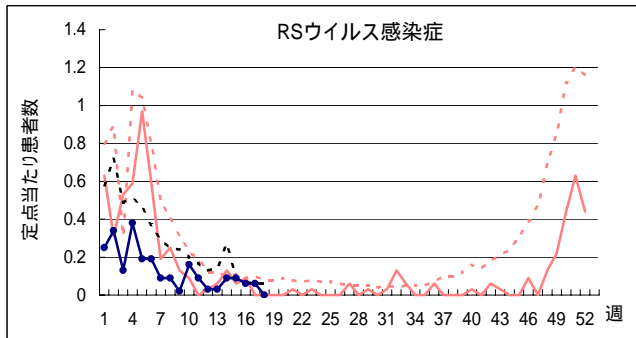
対象疾患	警報・注意報の基準値		
	警報 開始基準値	警報 継続基準値	注意報 基準値
咽頭結膜熱(プール熱)	2.0	0.1	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	4.0	2.0	-
流行性耳下腺炎	6.0	2.0	3.0

基準値は定点当たり患者数(人)

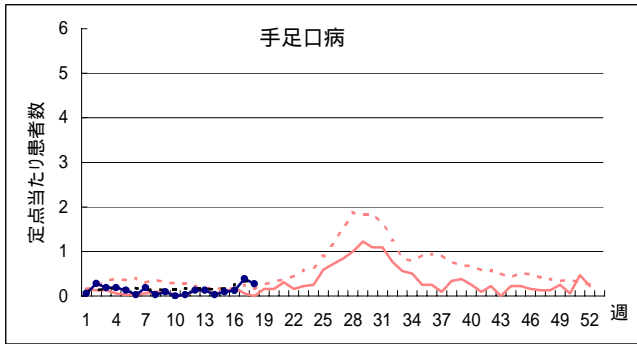
疾病別定点当たり患者数(平成20年第18週、H19.12.31～H20.5.4)



H19 { 滋賀 (solid red line)
 全国 (dotted red line)
 H20 { 滋賀 (solid blue line with dots)
 全国 (dotted black line)



疾病別定点当たり患者数(平成20年第18週、H19.12.31～H20.5.4)



H19 { 滋賀 ————
 全国 - - - - -
 H20 { 滋賀 ●●●●●
 全国

